

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和3年3月分）

【製造業】

- 製造業は、1月の鉱工業生産指数が前月比1.4%と上昇。ヒアリングでは、自動車関係の受注が堅調に推移しているとの声があった一方で、半導体大手ルネサスエレクトロニクス的那珂工場で発生した火災の影響により、先行きは不透明であるとの声があった。

【地場産業】

- 地場産業は、1月の鉱工業生産指数が食料品、家具を除き上昇した。ヒアリングでは、中国向けの動きが活発になってきたとの声があった一方で、ミャンマー情勢が県内企業に与える影響を不安視する声もあった。

【設備投資】

- 設備投資は、2月の金属工作機械受注額が海外向けでは4ヶ月連続で前年を上回ったが、国内向けで27ヶ月連続で前年を下回り、全体としては2ヶ月ぶりに前年を上回った。ヒアリングにおいては、建物へ設備投資を行う動きが一部の企業に見られたものの、全体としては、建物ではなく機械への設備投資を予定しているとの声が多くを占めた。

【個人消費】

- 個人消費は、家電大型専門店が前年同月比7.0%、百貨店・スーパーで同4.7%と増加したものの、コンビニで同▲7.1%、ドラッグストアで同▲5.2%、ホームセンターで同▲0.3%と減少した。ヒアリングにおいては、感染症対策を行ったうえで商店街やショッピングモールでのイベントを再開させる動きが見られた。

【観光】

- 観光は、新型コロナウイルスの影響により観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。2月、3月上旬も引き続き緊急事態宣言の対象区域となり、大きく落ち込んだ。緊急事態宣言解除後は小団体等での利用が増加しているとの声もある一方で、ほとんど変化はなく厳しい状況が続いているとの声があった。

【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、2月の制度融資実績は、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からのヒアリングでは、実質無利子・無担保融資の申込期限の到来により、申込件数が昨年ピーク時に次ぐ水準となった、との声があった。

【雇用】

- 雇用面は、2月の有効求人倍率が1.36倍と8ヶ月ぶりに減少した。ヒアリングでは、職種や部署、地域間で人材の過不足感が異なるとの声が聞かれた。

【景気動向】

1月の景気動向指数（一致指数）、2月の中小企業の景況感はともに上昇した。